

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 文献情報データベースと『国語年鑑』

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 雅光, 新野, 直哉, 斎藤, 達哉 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003316">https://doi.org/10.15084/00003316</a>

# 文献情報データベースと『国語年鑑』

情報資料研究部第二研究室 伊藤 雅光

// 新野 直哉

// 斎藤 達哉

キーワード： 二次情報 オフライン オンライン インターネット 情報検索

## 1. 目的

国語学および関連諸科学の研究動向を把握し、より効率的に文献情報を提供するために、文献・研究情報全般について、収集法およびその整理法の研究を行う。その成果の一つとして、『国語年鑑』を毎年刊行しており、将来的には文献データベースの形態でのオンラインによる公開も視野に入れているが、問題も多く、現在はその可能性について検討している。

## 2. 意義

あらゆる学問分野において、あるテーマで研究するためには、それと同じテーマの研究がどこまで進んでいるかという、研究動向を把握しておくことが前提となる。そのような1次的な情報に行き着くまでのガイドとして、研究文献情報を検索することが不可欠な作業となる。

『国語年鑑』は日本語の研究や教育に関する文献の二次的な情報源として、これまで40年以上にわたり広く利用されてきており、学界の「縁の下の力持」としての役割を担ってきた。

今後とも『国語年鑑』の価値はいよいよ高まるはずであるが、その冊数もすでに創刊以来43冊にのぼっており、また、年々、日本語研究文献情報は増加している。このような状況のなかでは、『国語年鑑』という冊子体の形態によるマニュアル検索では多くの時間が費やされるようになってきており、文献情報データベースによるコンピュータ検索の必要性が年々高まっている。

## 3. 『国語年鑑』の概要とその編集

### 3.1 創刊理由

国語年鑑は、1954(昭和29)年5月に創刊された。創刊号冒頭には初代所長西尾実による「刊行のことば」があり、そこには創刊の理由として「ことばに関するあらゆる意見や研究や声を記録、整理して、問題を解決し、ことばの生活を進展させる基礎材料としたためである」と書かれている。

以来、体裁や構成は変化しながらも40数年にわたり刊行され続け、全国の日本語の研究者や教育者に愛用されている。

## 3.2 構成

創刊以来何度か構成は変化しているが、最新の1997年版では

第1部文献

刊行図書一覧採録図書発行所一覧

雑誌論文一覧採録雑誌発行所一覧

第2部名簿

第3部資料

索引

という構成になっている（以下に掲げるのはすべてこの1997年版のデータである）。

## 3.3 内容

### (1) 第1部 文献

国語学及び周辺諸科学の分野の研究に関わる文献の書誌情報を収録している。「刊行図書一覧」には2006件、「雑誌論文一覧」には1829件が収録されている。いずれの場合も研究所図書館が購入した（または寄贈を受けた）図書・雑誌をすべて調査し、前記の条件に叶うものを選択し、収録している。また「刊行図書一覧」の場合は、国立国会図書館編の「日本全国書誌」（週刊で、同図書館が収集した図書の書誌情報を収録している）も二次調査資料として利用している。さらに収録文献の入手等に関する問い合わせの便宜のため、「採録図書発行所一覧」「採録雑誌発行所一覧」の項も設けている。

### (2) 第2部 名簿

「国語関係者名簿」には国語学及び周辺諸科学の分野の関係者約2000人を収録している。「各学会・関係諸団体一覧」には国語学及び周辺諸科学の分野の学会や団体約80の連絡先や活動状況等のデータを記載している。これらは毎年アンケートを行い、その結果によって内容を更新している。

さらに「学術団体・審議会等における関係者氏名」として、日本学士院（文学・史学・哲学部門）、日本芸術院（第二部文芸）、日本学術会議（人文学系）の各会員、そして国語審議会委員の名簿も掲載している。

### (3) 第3部 資料

ここでは国語学及び周辺諸科学に関する文部省科学研究費の交付状況や、第2部に記載された学会・諸団体等が制定する賞の受賞者の一覧などを掲載している。またその年に国語審議会の報告が出された際にはそれも掲載している。

### (4) 索引

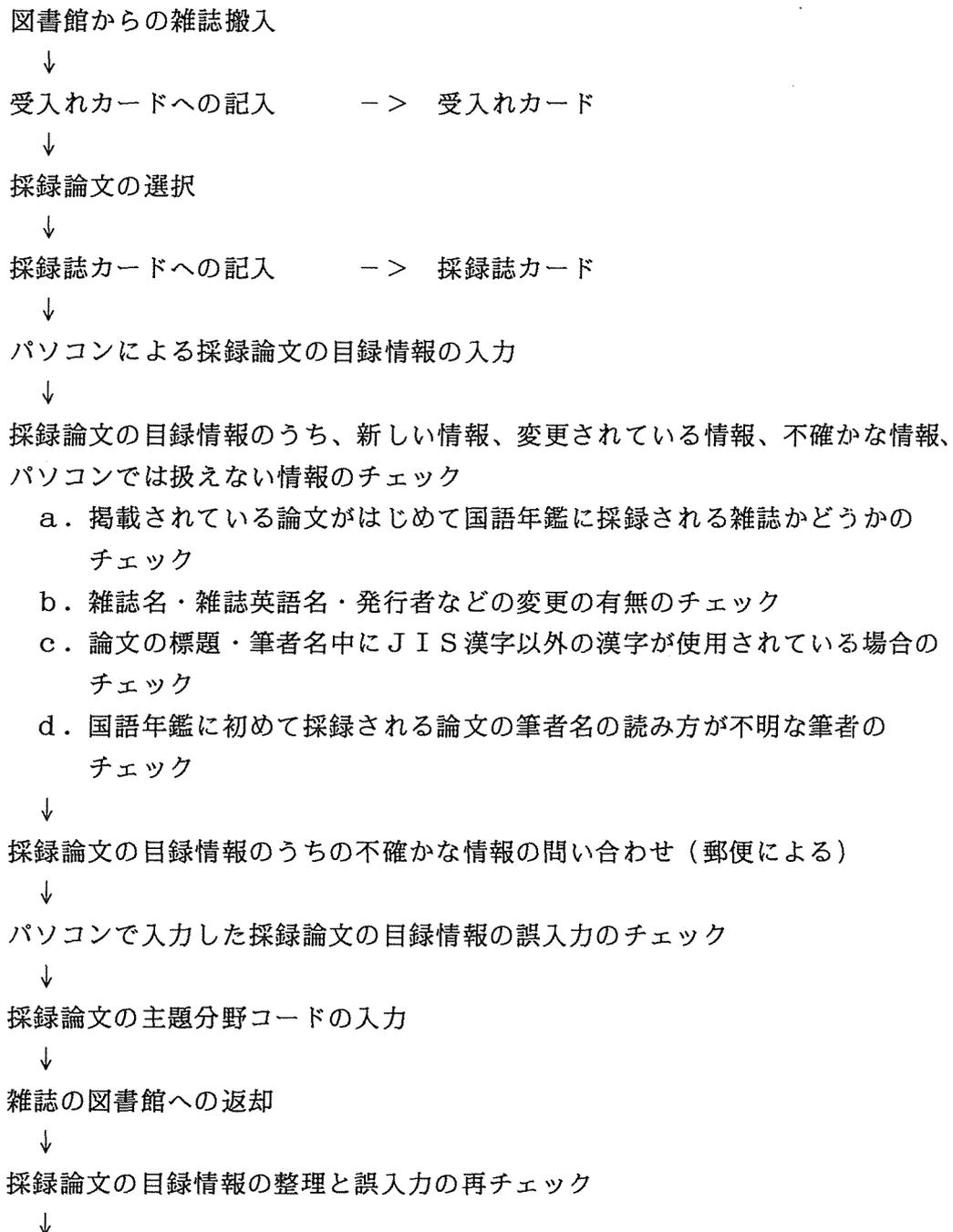
第1部に収録された文献の著者・編者名の50音順索引である。同姓同名の別人がいる場合には、「中村純子（国語教育）」「中村純子（方言）」のように専門分野を添えて区別している。この索引を見るだけで、研究者個人の1年間の研究活動を概観することもできる。

### 3.4 編集

『国語年鑑』の編集は昔ながらのカードを使う手作業と、最新のコンピュータによる機械作業の両方から成っている。試行錯誤の連続のため不備な点があることも事実であるが、毎年、前年度版の反省を基に改善が加えられている。今後さらに内容を充実させていきたいと考えている。

なお『国語年鑑』の最新号およびバックナンバーの入手に関しては、大日本図書（電話03-3561-8679）にお問い合わせいただきたい。

#### ・ 雑誌目録編集作業フローチャート



採録論文の目録情報を電算写植用の目録情報に形式変更

↓

採録論文の目録情報に電算写植用の諸コード入力

(電算写植用データファイル1)

↓

電算写植用目録データを印刷会社に送付

↓

印刷会社から送られてくる校正刷りのチェック(3校まで)

## 4. 文献情報データベース

### 4. 1 文献情報データベースの分類と現状

#### (1) オフライン・データベース

- a. フロッピーディスクやCD-ROMなどのパッケージ型のデータベース。
- b. 既に発行されたものとしては、国語学会・国立国語研究所編『フロッピー版 日本語研究文献目録 雑誌編』(1989)がある。これは国語学会創立40周年記念事業として、国語学会と国立国語研究所の共同事業として行ったもの。収録した文献情報は『国語年鑑』の昭和29年版から61年版までのもので、書誌データは83,786件にのぼる。
- c. 現在、その後のデータも追加したCD-ROM版の発行の要望が多く寄せられているが、諸種の事情からその早急の実現は困難となっている。

#### (2) オンライン・データベース

- a. 電話回線を使って遠隔地からも利用できるデータベース。
- b. 現在、インターネットで公開されているのは、国語学会創立50周年記念事業として、国語学会と国立国語研究所の共同事業として行った『海外日本語研究文献目録』のデータベースで、日本以外の国で発表された日本語研究文献情報13,504件、調査・収集が行われた国は30カ国にのぼる。
- c. 現在、『国語年鑑』で採録された文献情報のデータは各年度ごとのデータベースとして蓄積されており、年鑑の編集作業のためだけに使用されている。将来的には国立国語研究所全体、さらにはインターネットによる公開などが検討されつつある。

### 4. 2 文献情報データベースの構築・公開にあたっての問題点

最大の問題点は「定員の少なさ」にある。現在、3名の研究員が『国語年鑑』の編集にあっているが、その編集の膨大な作業量に忙殺されており、文献情報データベースの構築・管理・運営にまでは手がまわらないのが実状である。上記の『フロッピー版 日本語研究文献目録 雑誌編』や『海外日本語研究文献目録』データベースは、国語学会との共同事業であったためにできたことである。